

2021年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕(連結)

2021年2月3日

上場会社名 株式会社スカパーJSATホールディングス 上場取引所 東  
 コード番号 9412 URL <https://www.skyperfectjsat.space/>  
 代表者(役職名) 代表取締役社長 (氏名) 米倉 英一  
 問合せ先責任者(役職名) 取締役 (氏名) 仁藤 雅夫 (TEL) 03-5571-1500  
 四半期報告書提出予定日 2021年2月5日 配当支払開始予定日 —  
 四半期決算補足説明資料作成の有無 : 有  
 四半期決算説明会開催の有無 : 有 (証券アナリスト、機関投資家向け)

(百万円未満切捨て)

1. 2021年3月期第3四半期の連結業績(2020年4月1日~2020年12月31日)

(1) 連結経営成績(累計)

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2021年3月期第3四半期	104,342	0.5	16,577	34.7	17,351	33.0	11,290	32.4
2020年3月期第3四半期	103,823	△19.2	12,302	△2.7	13,041	△4.5	8,526	△4.2

(注) 包括利益 2021年3月期第3四半期 11,487百万円(45.9%) 2020年3月期第3四半期 7,871百万円(△20.3%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2021年3月期第3四半期	38.00	—
2020年3月期第3四半期	28.71	—

(2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率	1株当たり純資産
	百万円	百万円	%	円 銭
2021年3月期第3四半期	377,548	235,114	62.0	787.83
2020年3月期	378,367	228,943	60.3	767.69

(参考) 自己資本 2021年3月期第3四半期 234,119百万円 2020年3月期 228,010百万円

2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2020年3月期	—	9.00	—	9.00	18.00
2021年3月期	—	9.00	—	—	—
2021年3月期(予想)	—	—	—	9.00	18.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無 : 無

3. 2021年3月期の連結業績予想(2020年4月1日~2021年3月31日)

(%表示は、対前期増減率)

	営業収益		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	139,000	△0.4	18,500	21.2	19,200	19.3	12,500	3.9	42.07

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無 : 有

連結業績予想の修正については、本日(2021年2月3日)公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご覧ください。

※ 注記事項

- (1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動 : 無  
(連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動)
- (2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用 : 無
- (3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示
- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 無
  - ② ①以外の会計方針の変更 : 無
  - ③ 会計上の見積りの変更 : 無
  - ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数 (普通株式)

① 期末発行済株式数 (自己株式を含む)	2021年3月期3Q	297,170,975株	2020年3月期	297,007,848株
② 期末自己株式数	2021年3月期3Q	一株	2020年3月期	一株
③ 期中平均株式数 (四半期累計)	2021年3月期3Q	297,082,589株	2020年3月期3Q	297,007,848株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

(将来に関する記述等についてのご注意)

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想に関する事項は、添付資料P. 5 「1. 当四半期決算に関する定性的情報 (3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご参照ください。

(四半期決算補足説明資料及び四半期決算説明会内容の入手方法)

当社は、2021年2月3日に証券アナリスト、機関投資家向けの決算電話会議を開催する予定です。その説明内容 (音声) については、当日使用する決算説明資料とともに、開催後速やかに当社ホームページに掲載する予定です。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する説明	2
(2) 財政状態に関する説明	4
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明	5
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記	6
(1) 四半期連結貸借対照表	6
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書	8
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間	8
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間	9
(3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書	10
(4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項	11
(継続企業の前提に関する注記)	11
(セグメント情報等)	11

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

なお、本文中の記載金額は、億円単位の表示は億円未満四捨五入とし、百万円単位の表示は百万円未満切捨てとしております。

## (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、新型コロナウイルス感染症の影響により依然として厳しい状況にあるものの、個人消費等に持ち直しの動きがみられています。

当社グループを取り巻く環境としては、メディア事業の分野では既存の有料放送市場が成熟している一方で、定額制又は無料のインターネット動画配信サービス市場は拡大を続けており、コンテンツ獲得及び顧客獲得の両面で国内外の事業者との激しい競争が続いております。宇宙事業の分野では船舶・航空機向けの移動体衛星通信や携帯電話基地局向けバックホール回線の需要が拡大する一方で、グローバルマーケットにおいて海外衛星オペレーターとの厳しい価格競争が続いております。また、世界レベルで新たな事業者が宇宙ビジネスに参入し、新規技術による安価で高性能なロケットの開発や大規模な低軌道衛星通信システムプロジェクトを推進するなど、ビジネス環境が大きく変化しております。

このような経済状況の下、当第3四半期連結累計期間における当社グループの経営成績は次のとおりとなりました。

区分	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (百万円)	増減率 (%)
営業収益	103,823	104,342	518	0.5%
営業利益	12,302	16,577	4,274	34.7%
経常利益	13,041	17,351	4,309	33.0%
税金等調整前四半期純利益	13,041	16,886	3,844	29.5%
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,526	11,290	2,763	32.4%

なお、EBITDAは前年同四半期比33億円増加し、359億円となっております。

(注) EBITDAは、親会社株主に帰属する四半期純利益、法人税等合計、支払利息、減価償却費、のれん償却額の合計として算定しております。

当社グループのセグメント別の概況は次のとおりです。(業績については、セグメント間の内部営業収益等を含めて記載しております。)

## &lt;メディア事業&gt;

## ・サービスの拡充及び差別化

## (サービスの拡充)

テレビ1台分の料金で3台まで追加料金なしで50チャンネルが見放題となる「スカパー！基本プラン」は、新型コロナウイルス感染症拡大に伴って在宅時間が増える状況の中で第1四半期に展開した「スカパー！イェナカ応援キャンペーン」が奏功するなど契約件数は順調に増加し、2020年12月末時点で604千件（前年同月比126%）に達しました。家庭内の複数の部屋で視聴できる環境を増やすことで、お客様の満足度向上を図っております。

光ファイバーによる地上デジタル・BSデジタル等の再送信サービスは新4K8K衛星放送全チャンネルが視聴可能となっており、4Kテレビの普及や再送信サービスの提供エリア拡大に合わせ、契約件数の拡大に努めております。2020年11月には、東北エリアにおける更なる提供エリア拡大やサービス拡充を目指し、ケーブルテレビ事業者と放送設備を共有して事業効率化を図る協業モデルによるサービス提供を開始いたしました。

## (コンテンツの差別化)

2020年シーズンのプロ野球は3ヶ月遅れて6月19日に開幕し、昨年に引き続き「プロ野球セット」でセ・パ12球団の公式戦全試合を生放送・配信いたしました。

18/19シーズンから放送・配信を行なっている海外サッカー「ドイツブンデスリーガ」は、20/21シーズンから5

シーズンにわたる独占放送権・配信権を獲得し、9月18日に開幕した20/21シーズンは全試合生放送・配信しております。日本国内における共同マーケティング活動を含むパートナーシップ契約により、従来の放送・配信にとどまらず、クラブを招聘したプレシーズンマッチ開催や各種イベントの実施などで日本のファンを増やすための様々な施策を進めてまいります。

また、総合スポーツチャンネルスポーツライブ+（プラス）においては、2020年シーズンの放送権を獲得したプロ野球福岡ソフトバンクホークスの主催試合を中心に、海外サッカーや国内サッカー、B.LEAGUE等のスポーツ中継を行い、スポーツコンテンツをより多くのお客様にお楽しみいただいております。

#### ・新たな収益の獲得

2020年10月に、当社グループは国内最大級のオンラインビデオプラットフォームを提供する株式会社PLAYと、国内外の配信サービスを支援するための事業である「メディアHUBクラウド」の実現に向けた取り組みを開始いたしました。これは、放送用などの多くの素材が集約されているスカパー東京メディアセンターと当社が連携することにより、コンテンツプロバイダ、OTTサービス事業者双方に対して素材の集積地“HUB”としての役割を実現し、短期間かつ低コストで信頼性の高い配信手段の提供を目指すものであります。

当第3四半期連結累計期間における加入件数は次のとおりとなりました。

	新規（注）	解約	純増減	累計
当期	449千件	531千件	△82千件	3,088千件
前年同四半期比	15千件	21千件	△6千件	△84千件

（注）従来の「新規加入件数」及び「再加入件数」を合算して表示しております。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間のメディア事業の業績は次のとおりとなりました。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (百万円)	増減率 (%)
営業収益				
外部顧客への営業収益	71,547	66,971	△4,575	△6.4%
セグメント間の内部営業収益等	2,475	2,414	△60	△2.4%
計	74,022	69,386	△4,636	△6.3%
営業利益	3,871	7,047	3,175	82.0%
セグメント利益（親会社株主に帰属 する四半期純利益）	2,800	5,089	2,288	81.7%

視聴料収入の減少29億円等により営業収益が減少いたしました。これにより番組供給料も16億円減少いたしました。これに加え、コンテンツ費の減少13億円、減価償却費の減少11億円、販促関連費用の減少7億円、衛星回線料等の減少6億円等により、営業利益及びセグメント利益は増加いたしました。

#### <宇宙事業>

##### ・既存事業の強化

2020年2月にJCSAT-17（軌道位置：東経136度）の打ち上げを実施し、2020年4月に移動体通信の既存顧客に向けて長期利用契約のもとサービス提供を開始しております。

また、グローバル・モバイルビジネスの拡大及び競争力の強化のため打ち上げたハイスループット衛星（従来よりも伝送容量を大幅に拡張した衛星。以下「HTS」という。）のHorizons 3eは、着実に収益を拡大しております。今後、同じくHTSであるJCSAT-1Cとあわせて、増大する通信需要に対応してまいります。

##### ・新たな技術の活用や事業領域拡大への取り組み

Planet Labs Inc. の保有する多数の超小型地球観測衛星群により高頻度で撮影された衛星画像販売サービスに関しては、政府系機関や民間の農業・災害対策・遠隔監視等の分野で順調に契約を獲得しております。

ビジネスインテリジェンス分野に関しては、衛星から取得した画像や位置情報などの様々な地理空間情報と、各分野にカスタマイズしたAI分析を組み合わせた情報サービス「Spatio-i」の提供を開始したほか、衛星データと地図データなどを組み合わせた「総合防災情報サービス」の開発に向け、株式会社ゼンリン及び日本工営株式会社と業務提携いたしました。また、2020年12月には、一般財団法人電力中央研究所と衛星画像や地上センサー画像及びAI等を用いた「ハイブリッド型太陽光発電出力予測システム」の共同開発に合意しました。引き続き、当社はパートナーとの協力のもと、新たなビジネスの開発に取り組んでまいります。

政府系プロジェクトへの取り組みに関しては、宇宙航空研究開発機構（以下「JAXA」という。）と技術試験衛星9号機（ETS-9）の実証後期間の定常運用業務の受託及び相乗りペイロードによる衛星バスの利用に関する協定書を締結いたしました。相乗りペイロードとして当社が搭載する光学望遠鏡は、近年需要の高まっているスペースデブリ対策を目的としており、宇宙環境の把握など新たな分野での活動に役立ててまいります。

以上の結果、当第3四半期連結累計期間の宇宙事業の業績は次のとおりとなりました。

	前第3四半期 連結累計期間 (百万円)	当第3四半期 連結累計期間 (百万円)	前年同四半期比 (百万円)	増減率 (%)
営業収益				
外部顧客への営業収益	32,276	37,370	5,094	15.8%
セグメント間の内部営業収益等	6,367	5,877	△490	△7.7%
計	38,644	43,248	4,603	11.9%
営業利益	8,956	10,041	1,085	12.1%
セグメント利益（親会社株主に帰属 する四半期純利益）	6,144	6,614	469	7.6%

新型コロナウイルス感染症の影響により航空機内インターネット接続用衛星回線の収益が8億円減少いたしました。2018年度から2019年度にかけて投入したJCSAT-17及びHorizons 3eの収益が53億円増加したこと等により営業収益は増加いたしました。

## (2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における資産合計は3,775億円となり、前連結会計年度末比（以下「前期比」）8億円減少いたしました。

流動資産は、Xバンド事業に関する債権回収等により売掛金が76億円減少いたしました。現金及び現金同等物の増加229億円等により前期比147億円増加いたしました。なお、リース債権の増加451億円及び仕掛品の減少455億円は、主にJCSAT-17のサービス開始に伴い仕掛品をリース債権へ振り替えたことによるものであります。

有形固定資産及び無形固定資産は、設備投資により65億円増加いたしました。減価償却費175億円、のれん償却額7億円等により前期比117億円減少いたしました。

当第3四半期連結会計期間末における負債合計は1,424億円となり、前期比70億円減少いたしました。

主な増加は前受収益61億円であり、主な減少は社債の償還及びXバンド事業に関する借入金の返済等による有利子負債の減少121億円であります。

当第3四半期連結会計期間末における非支配株主持分を含めた純資産は2,351億円となり、前期比62億円増加いたしました。

主な増加は親会社株主に帰属する四半期純利益の計上等による利益剰余金の増加59億円であります。また、自己資本比率は62.0%となり、前期比1.7ポイント増加いたしました。

当第3四半期連結累計期間における営業活動によるキャッシュ・フローは、税金等調整前四半期純利益、減価償却費、のれん償却額の合計350億円に加え、売上債権の減少76億円及び前受収益の増加61億円により、471億円の収入(前年同四半期は238億円の収入)となりました。

投資活動によるキャッシュ・フローは、有形固定資産及び無形固定資産の取得による支出74億円等により76億円の支出(前年同四半期は151億円の支出)となりました。

財務活動によるキャッシュ・フローは、長期借入金の返済による支出61億円、社債の償還による支出50億円、配当金支払による支出53億円等により165億円の支出(前年同四半期は124億円の支出)となりました。

以上の結果、当第3四半期連結会計期間末における現金及び現金同等物の残高は、前期比229億円増加し、665億円となりました。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

最近の業績動向を踏まえ、2020年11月4日に公表いたしました通期の連結業績予想を修正いたしました。詳細につきましては、本日(2021年2月3日)公表いたしました「連結業績予想の修正に関するお知らせ」をご参照ください。



## 2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

## (1) 四半期連結貸借対照表

(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	25,103	48,502
売掛金	74,369	66,751
リース債権	2,910	48,010
有価証券	18,498	17,999
番組勘定	1,202	1,064
商品	864	1,031
仕掛品	47,273	1,775
貯蔵品	282	292
短期貸付金	1,198	1,929
未収入金	535	161
その他	4,477	3,592
貸倒引当金	△669	△375
流動資産合計	176,049	190,735
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	9,630	9,056
機械装置及び運搬具（純額）	27,203	26,183
通信衛星設備（純額）	96,373	87,023
土地	2,924	2,924
建設仮勘定	154	2,318
その他（純額）	6,253	5,425
有形固定資産合計	142,539	132,932
無形固定資産		
のれん	1,823	1,164
ソフトウェア	6,847	5,424
その他	60	59
無形固定資産合計	8,731	6,648
投資その他の資産		
投資有価証券	20,312	18,793
長期貸付金	18,578	16,979
繰延税金資産	9,065	8,524
その他	3,089	2,990
貸倒引当金	—	△56
投資その他の資産合計	51,046	47,231
固定資産合計	202,318	186,813
資産合計	378,367	377,548



(単位：百万円)

	前連結会計年度 (2020年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2020年12月31日)
<b>負債の部</b>		
流動負債		
買掛金	419	228
1年内償還予定の社債	5,000	—
1年内返済予定の長期借入金	6,467	7,534
未払金	12,392	9,602
未払法人税等	734	3,927
視聴料預り金	8,066	7,791
前受収益	7,154	13,283
賞与引当金	655	297
その他	6,892	5,505
流動負債合計	47,782	48,171
固定負債		
社債	15,000	15,000
長期借入金	75,974	67,760
繰延税金負債	344	323
役員退職慰労引当金	6	6
退職給付に係る負債	6,023	6,269
資産除去債務	2,298	2,302
その他	1,993	2,600
固定負債合計	101,641	94,262
負債合計	149,423	142,434
<b>純資産の部</b>		
株主資本		
資本金	10,000	10,033
資本剰余金	131,984	132,017
利益剰余金	86,504	92,447
株主資本合計	228,488	234,498
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	△72	△37
繰延ヘッジ損益	△649	△537
為替換算調整勘定	500	441
退職給付に係る調整累計額	△256	△246
その他の包括利益累計額合計	△477	△379
非支配株主持分	932	995
純資産合計	228,943	235,114
負債純資産合計	378,367	377,548

## (2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書

## 四半期連結損益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
営業収益	103,823	104,342
営業原価	66,457	64,584
営業総利益	37,366	39,757
販売費及び一般管理費	25,063	23,180
営業利益	12,302	16,577
営業外収益		
受取利息	1,731	1,377
受取配当金	9	17
持分法による投資利益	325	258
その他	122	377
営業外収益合計	2,189	2,030
営業外費用		
支払利息	1,415	988
為替差損	4	64
支払手数料	—	141
その他	31	62
営業外費用合計	1,451	1,256
経常利益	13,041	17,351
特別損失		
投資有価証券売却損	—	34
関係会社株式評価損	—	430
特別損失合計	—	464
税金等調整前四半期純利益	13,041	16,886
法人税、住民税及び事業税	3,917	5,069
法人税等調整額	618	456
法人税等合計	4,536	5,525
四半期純利益	8,504	11,360
非支配株主に帰属する四半期純利益又は非支配株主に帰属する四半期純損失(△)	△21	70
親会社株主に帰属する四半期純利益	8,526	11,290

## 四半期連結包括利益計算書

## 第3四半期連結累計期間

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
四半期純利益	8,504	11,360
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△317	29
繰延ヘッジ損益	190	134
為替換算調整勘定	△516	△59
退職給付に係る調整額	6	10
持分法適用会社に対する持分相当額	3	11
その他の包括利益合計	△633	126
四半期包括利益	7,871	11,487
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	7,837	11,389
非支配株主に係る四半期包括利益	34	98

## (3) 四半期連結キャッシュ・フロー計算書

(単位：百万円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2019年4月1日 至 2019年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2020年4月1日 至 2020年12月31日)
<b>営業活動によるキャッシュ・フロー</b>		
税金等調整前四半期純利益	13,041	16,886
減価償却費	17,460	17,473
のれん償却額	658	658
受取利息及び受取配当金	△1,741	△1,394
支払利息	1,415	988
持分法による投資損益(△は益)	△325	△258
関係会社株式評価損	—	430
売上債権の増減額(△は増加)	5,591	7,577
番組勘定の増減額(△は増加)	△184	137
未収入金の増減額(△は増加)	240	374
たな卸資産の増減額(△は増加)	△10,237	45,321
未払金の増減額(△は減少)	△1,037	△2,789
前受収益の増減額(△は減少)	4,573	6,130
リース債権の増減額(△は増加)	164	△45,099
その他	△1,241	1,481
小計	28,377	47,918
利息及び配当金の受取額	1,397	1,673
利息の支払額	△1,745	△1,380
法人税等の支払額	△4,244	△1,105
営業活動によるキャッシュ・フロー	23,785	47,106
<b>投資活動によるキャッシュ・フロー</b>		
有価証券の取得による支出	△600	—
有形固定資産の取得による支出	△13,045	△6,742
無形固定資産の取得による支出	△1,365	△707
投資有価証券の取得による支出	△32	△70
貸付金の回収による収入	—	196
関係会社株式の取得による支出	△21	△289
その他	△53	0
投資活動によるキャッシュ・フロー	△15,117	△7,612
<b>財務活動によるキャッシュ・フロー</b>		
ファイナンス・リース債務の返済による支出	△69	△70
長期借入金の返済による支出	△5,134	△6,085
社債の償還による支出	—	△5,000
配当金の支払額	△5,339	△5,338
非支配株主への配当金の支払額	△39	△35
連結の範囲の変更を伴わない子会社株式の取得による支出	△1,860	—
財務活動によるキャッシュ・フロー	△12,442	△16,530
現金及び現金同等物に係る換算差額	△45	△64
現金及び現金同等物の増減額(△は減少)	△3,820	22,898
現金及び現金同等物の期首残高	48,089	43,602
現金及び現金同等物の四半期末残高	44,269	66,501

## (4) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

## 【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2019年4月1日 至2019年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	メディア事業	宇宙事業	合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
営業収益					
外部顧客への営業収益	71,547	32,276	103,823	—	103,823
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	2,475	6,367	8,842	△8,842	—
計	74,022	38,644	112,666	△8,842	103,823
営業利益	3,871	8,956	12,827	△524	12,302
セグメント利益(親会社株主に 帰属する四半期純利益)	2,800	6,144	8,945	△419	8,526

(注1) セグメント利益の調整額△419百万円には、セグメント間取引消去△7百万円と、各報告セグメントに配分していない全社損益(全社収益と全社費用の純額)△411百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費、営業外収益及び税金費用であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の親会社株主に帰属する四半期純利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

宇宙事業セグメントにおいて、持分法適用関連会社である(株)エム・シー・シーの株式を追加取得したことにより、負ののれん発生益109百万円を計上しております。なお、四半期連結損益計算書上は「持分法による投資利益」に含めております。

## II 当第3四半期連結累計期間(自2020年4月1日 至2020年12月31日)

## 1. 報告セグメントごとの営業収益及び利益又は損失の金額に関する情報

(単位:百万円)

	メディア事業	宇宙事業	合計	調整額 (注1)	四半期連結損益 計算書計上額 (注2)
営業収益					
外部顧客への営業収益	66,971	37,370	104,342	—	104,342
セグメント間の内部営業収益 又は振替高	2,414	5,877	8,292	△8,292	—
計	69,386	43,248	112,634	△8,292	104,342
営業利益	7,047	10,041	17,088	△511	16,577
セグメント利益(親会社株主 に帰属する四半期純利益)	5,089	6,614	11,704	△413	11,290

(注1) セグメント利益の調整額△413百万円には、セグメント間取引消去△3百万円と、各報告セグメントに配分していない全社損益(全社収益と全社費用の純額)△410百万円が含まれております。全社損益は、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費、営業外収益及び税金費用であります。

(注2) セグメント利益は、四半期連結損益計算書の親会社株主に帰属する四半期純利益と調整を行っております。

## 2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(固定資産に係る重要な減損損失)

該当事項はありません。

(のれんの金額の重要な変動)

該当事項はありません。

(重要な負ののれん発生益)

該当事項はありません。